

会報

第 38 号 (2017/2/24)

広島県福山市木之庄町 4-3-14

Tel&Fax:084-917-5937

Mail:info@crrc-fukuyama.org



Community Renaissance
Research Center

2017年、新しい年を迎えて

代表理事 安川悦子

あけましておめでとつございませう。

昨年12月のアメリカの大統領選挙以来、世界はきな臭くなり、これからどうなるのだろうかと考えているうちに年が明け2017年になりました。

百年前のこの年、ロシア革命が起こり、長い間専制支配をしてきたロシア帝国が滅びました。翌年の1918年には、ヨーロッパ中を戦争の渦に巻き込んだ第1次世界大戦が終わり、ドイツ帝国が崩壊してワイマル共和国が成立しました。それから1世紀を経た今、金と人のグローバルな自由往来をたてまえて「新自由主義」の経済システムの勧進元であるアメリカが、悲鳴をあげている。新しいアメリカ大統領の登場はその悲鳴のあらわれなのではないか。そしてまた日本でもこうした悲鳴を今あげたくなっているのではないか。こんなことを考えながらお正月を過ごしました。コミュニティルネッサンス研究所も、発足してもう7年になります。コミュニティを生活の最小単位としてうまく機能させる。そのためのシンクタンクとして、そしてまたその機能を実践する場

として、この研究所をどうしていったらよいか。空虚な「ナシヨナリズム」が支配する「国家」にかわって、「生活の場」としてのコミュニティをどう充実させていくのか。そのために知恵を出し合い、議論し、実践していく、そんな場をコミュニティの多くの人たちに提供できたらいいなと考えております。今年も宜しくお願い致します。

今後の予定



3月16日(木) 14時~16時

上手な転び方入門講座

中村和裕と一緒に学ぼう



60歳以上対象 はじめての柔道

★同封のチラシをご覧ください。

「コムルネセミナー」

3月1日(水) 午後14時~

「ケアの社会学」を読む会

場所：ルネッサンス研究所集会所

参加費：300円

読む本：上野千鶴子著「ケアの社会学」

内容：第2章「ケアとは何であるべきか」

1月から牧田先生(福山市立大学特任教員)にも参加して頂いています。高齢者問題等に詳しいので、質問などしながら皆で議論を深めていけたらと思います。

4月5日(水) 午前10時~

お花見

場所：福山城

参加費：500円

皆でワイワイお花見しませんか？

お一人での参加も大歓迎です！

3月24日までにお申し込み下さい！



仁伍餅つき祭り



2016年12月25日(日)朝10時から、仁伍地域でお馴染みの「餅つき祭り」が開かれました。利用者さんの挨拶から始まり、地域の方、利用者さん、子どもたちなど沢山の方の協力で、手際よく餅つきをして餅を丸めて販売をされました。

地域の絆利用者さん手作りの干し柿を自身で配られていました。お気持ちがあればカンパをと箱が皆さんのコインが入っていました。お互いにとって心温まる企画だなと思いました。

また、城北中学校の生徒さんによる「城北太鼓」、利用者さんによるハーモニカ演奏などを楽しみました。地域の絆の祭りも回を重ねることに、利用者さんの姿がステージ、販売したりなど様々な場面で見かけるようになったと感じました。

当NPO法人では、恒例のおでん・干支飾り・ゆず販売、リサイクルバザー、子ども向けゲームを実施しました。今回は、三浦さん・藤原さん・遠藤さん・三宅さん・寶諸さん・原田さん・久保田さん・兼村さん。沢山の方に協力して頂き、ありがとうございました。

図書への開放に向けて

図書のオープンに向けて元市の図書館司書の三宅さんに3月から、遠藤さんに7月から来て頂いています。毎週火曜日にボランティアで本の整理をして頂いて、やっと図書の開放に向けて少しずつ動き出しました。

本の整理をしていただく中で、沢山の紙芝居を見つけました。その活用方法を司書さんと一緒に考えた時に、高齢者施設で読み聞かせをやってみてはどうか？という意見が出ました。早速いくつかの有料老人ホームに電話をしたところ、ある施設が「是非お願いします」と言ってくれたので、後日司書さんが読み聞かせに行かせて頂くことになりました。今後、試行錯誤しながらこのような試みをしていき、新しい事業として展開していけたらなあと思っています。

心や体を動かす音楽の力 フルーティーを楽しみながら



音楽を聴くとなぜ楽しくなるのか。11月30日、午後2時から、福山市立大学名誉教授の村山ひろみさんにお話し頂きました。座ってお話を聞くだけではなく、時には音楽に合わせて体を動かしながら、音楽の何に魅せられるのかを体で感じたりしました。最後には「このすばらしき世界」とい

うビデオ（村山ひろみさん制作の）を見ながら、音楽による思想の表現についても学びました。お話しが終わってから、三浦貞江さんから「フルーティーとは」のお話を聞いた後、果物の香りたっぷりの紅茶を頂きました。



以下、講座の概略は次の通りです。

「心や体を動かす音楽の力」

1. 音楽のもつ曖昧さと自由度

音楽はたいてい楽譜を見ながら演奏されています。この楽譜には一体何が書かれているのでしょうか。

音楽は「再現芸術」です。楽譜には①音の高低・強弱・長短、②テンポ（Allegro、Lentoなど）、③曲想（Melody、agitatoなど）が書かれています。

そのほか再現するのに必要な、①音がだんだん上がっていくのか加工していくのかの記号、②曲の最後は「コダ」（リタルダント）Ⅱだんだんゆっくり（テンポが変わらない場合もある）、③フレーズの最後の音は前の音より弱く、④同じ部分のメ

ロディーパターン繰り返しは だんだん速くなる（アツチエランド、accelerando）、⑤メロディの明瞭性、⑥繰り返し返されるメロディは2回目と1回目とは強弱に変化させる、⑦メロディの細かいニュアンス、などが書かれています。ですから、同じ曲でも演奏家により印象が変わります。

ここでモーツァルトのピアノソナタNo. 33、第3楽章「トルコ行進曲」を、マリア・ジョアン・ピレシユ（ポルトガル出身のピアニスト）、ファジル・サイ（トルコ出身のピアニスト兼作曲家）の演奏を聞きました。二人のテンポはかなり異なっていて、同じ曲でも違う曲のように感じました。

2. 音楽の何に魅せられるのか

音楽を聴いて私たちはいろいろな情景を思い浮かべてイメージしています。これは楽譜に書かれている、テンポ「速いー遅い」、メロディ「順次進行ー跳躍進行」、音符の長さ「長いー短い」、音色「柔らかいー力強い」などの情景や感情を表現出来るものなのです。

また、知らない人が集まった会の最初に音楽を使ったゲームをやる場合があります。今回も参加者が2グループに分かれて、曲にあわせて、速いテンポで隣の人の手のひらに手をのせたり、ゆっくりしたテンポで同じ動作をしました。すると、速いテンポの時は狭い空間でも出来ませんが、ゆっくりしたテンポでおこなう時には広い空間が必要であるという事が分かりました。それとともにお互いに親密感が持てました。

そして、①星に願いを（ピノキオより、1940）、②エデンの東（エデンの東）より、③スーパ

マン(「スーパーマン」、1978より)、④踊り明かそう(「マイ・フェア・レディ」より、1956)、⑤タラのテーマ(「風と共に去りぬ」より、1936)、を聴きながら、どのような思いが込められているのかを考えました。

このように、音楽は心や体を動かす力があるのです。

最後に、「このすばらしき世界 What a Wonderful World」を聞きました。

この音楽を作曲したボブ・シール、ジョージ・デヴィッド・ワイスはベトナム戦争嘆き、平和を願い作られた曲です。歌うのはルイ・アームストロング。彼はルイジアナ州ニューオーリンズ生まれ、12歳の時に発砲し少年院に送られるが、そこで金管楽器・コルネットの手ほどきを受け、演奏をしていましたが、歌手になっています。その歌を歌いながら世界中をツアーし、黒人への人種差別を身にしみて感じ、公民権運動に関わるようになった人です。

「フルーツティーについて」

フレッシュな果実で作るフルーツティーは、フルーツの甘さと酸味が紅茶に溶け込み、とても贅沢な味わいと香りのする飲み物です。北欧など冬には生の果実の手に入らないところではドライフルーツが使われています。

フルーツティーの茶葉はスリランカ産のキャンディ、ディンブラやインド産のニルニギ等のもので使われます。その理由は、次のような点が考えられます。①味が軽くて渋みが少ない、②フルーツの酸と混ぜても色が失われぬ、③フルー

ツの香りが弱くならない、④短い時間で抽出できる、⑤ナチュラルで優しい香りである、など。

三浦さんがフルーツティーに最初にであったのは八ヶ岳の麓にある柳生博のお店であったそうです。高原の爽やかな店で、サブされる器や香りと味にとってもリッチな気分を味わう事が出来たとか。ルネッサンスの講義室でもリッチな気分が味わえましたよ。

編集後記



3月末で福山を離れることになりました。福山にいた6年のうち、このNPOで5年お世話になりました。今思えばあつという間の5年間でしたが、その間様々なことを学ばせてもらいました。一番大きく変わったのは、自分の労働観のようなものです。今まで働くのは、お金のため、自分のため、会社の利益のためであった私ですが、このNPOで、働くことはお金のためだけではなく、少しでも困っていたり助けを必要としている人の役に立てて、お手伝いができたらいいな、というような考え方に変わりました。きれいな事かもしれませんが、これから場所が変わっても、ここで学んだ気持ちを忘れずに前に進んでいきたいと思えます。そして、これから事務の仕事は久保田さんと兼村さんにバトンタッチします。引き続き宜しくお願いします。今までありがとうございました。(羽)



コラム

さまざまな生き方

友人からのメールから

先日、友人から久しぶりに「聞きたい事がある」とメールが来ました。「何の事だろう」と思いつながら会ってきました。

聞きたい事とは「このところ少し調子が悪くて落ち込み気味だった。このままでは良くないので、少し気持ちを持ち上げたいと思っている。デイサービスに通っていて思うのに、デイサービスにいけない日にはおしゃべりなどをしたいと思っている人が多い事が分かった。だから、我が家を開放して、おしゃべりしたり、カラオケをしたりしたいけど、どうかしら」とのこと。

彼女は難病を抱えていて、今は完全に車いす生活。そんな彼女が頑張ろうと思っている話を聞いて私も元気をもらいました。どんな障害があっても、その人の「できる」を活かし会える、という事がもっと広がったらいいな、と思いました。

五年前におこなったシンポジウム『まちづくりと地域の自立く高齢者の「できる」と高齢者の「つながる」を求めて』で話し合われた事が、やっと少し掘り始められたのか、とも思い嬉しく感じました。

